紙人形春の囁き（1926）

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 日本
色彩 B&W
初公開日 1926/02/28

【解説】
溝口健二の最初期の名作といわれるサイレント作品。プリントもネガも残っていないとされており、今では見ることのできない溝口作品の一つ。田中栄三が原作・脚本を担当した。
両国の糸屋の娘・お種は、近所に住む象牙細工屋の息子・純夫と恋仲になっていた。二人は年末に出かけた蕎麦屋二階の座敷で結ばれる。やがて純夫はパリ留学に出かけるが、その間にお種は、自分が純夫の子供を身ごもっていることに気づいていた。占い師に相談したところ二人の結婚は「大凶」と出るが、お種は帰国した純夫と結婚。しかしその後、お種の父・半兵衛が急死し、純夫の実家の象牙屋が倒産してしまう。お種は子供を出産するが、今度は純夫が病気にかかり命を落としてしまうのだった。

【クレジット】
監督 溝口健二
原作 田中栄三
脚色 田中栄三
撮影 横田達之
編集 溝口健二
出演 山本嘉一　池田半兵衛
島耕二　長男・銀之助
梅村蓉子　妹・お種
市川春衛　乳母・中村お霜
岡田時彦　象牙商の息子・貝島純夫
宮部静子　女給・藤倉愛子
妹尾松子　柳橋芸者・松相模の小芳
笹谷源三郎　糸屋の老番頭・渡辺善兵衛
坂東三江紫　愛子の母・藤倉お辰
根岸東一郎　相撲取

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.